



カントリーエレベーターって何なの

大規模乾燥調整貯蔵施設のこと

カントリーエレベーターは、大規模乾燥調整貯蔵施設のことです。
コンバインで収穫した「もみ」を、火力乾燥機で、決められた水分の量になるまで、かわかして、貯蔵しておきます。

この施設は、必要なときに「げん米」にし、決まった規格に包装して、出荷できるように作られたものです。サイロ状の貯蔵庫になっていることに、特色があります。

アメリカやカナダの、穀物がたくさんとれる地方には、カントリーエレベーターとよばれる、穀物の貯蔵調整施設が見られます。

日本の貯蔵施設が、この施設に似ていることから、カントリーエレベーターとよばれているのです。

1964年、日本で3か所に建設された

カントリーエレベーターは、1964年石川県吉田農協、新潟県白根農協、それに秋田県高梨農協の3か所に、建設されたのが最初です。

農業の機械化が進んで、コンバインで収穫された「もみ」が、一度にたくさん集まり、今までの乾燥機では、間に合わなくなりました。それで、このような施設が、作られることになったのです。（監修・青木 国夫）

カントリーエレベーター

